

平成26年11月(2014年) No.587

新企画

「ビデオ何でも相談」を発表会前に実施

今回のOMC映像フェスティバルご案内プログラムに「ビデオ何でも相談」というコーナーを設けて、ビデオ映像に関心を持っている方に寄って貰うように会場と担当者を置く企画をしています。初めての試みですが、進藤世話役はじめ多くの方々が応援体制をとって頂いております。残念ながら11月1日現在まだほとんど反応がありません。恐らく発表会来場者は、自分でも作りたいという人より、観るのが楽しみといった人が多く、また高齢者がほとんど、といった側面もあるかと思えます。しかし、相談に来る人が少なかったときでも、こういう積極的に、こちらから映像仲間を増やす為に何かをやる、という気持ちは大切だと思うのです。インターネットで見たのでOMCのことを知りたいという未知の人からの問い合わせも時々入ってきますので、ぜひ例会に見学に来て下さいと呼びかけています。

会員の高齢化もどんどん進んできます。新しい会員を入れていかないとジリ貧になってしまいます。比較的最近入って頂いた会員さんも例会に作品を持ってこられるようになり喜んでおります。しかし上映本数が多く司会者の感想なり助言なりの時間がとれないで、上映するだけで精一杯という状態が続いています。それはそれで盛会でいいのですが、もっと助言が欲しい、という作者も多い筈です。ずっと以前、作品研究会をやっていましたが、新しいメンバーも居られるので、そういった勉強会みたいなことを来年は考えたいと思えます。どうしたら全国コンに入賞できるような作品が出来るか、そのコツは何か、そのためどこをどう手直ししたらよいか等、まずはOMC会員の作品のレベルアップを目ざした企画を来期はぜひ自由参加で実施したいと思えます。いずれ会員以外の人でもインターネットで呼びかけて集めそれこそ「ビデオ何でも相談会」に発展させ、会員さん増加の一助にしたらどうかと思っています。(会長 合原一夫)

11月例会のお知らせ

11月例会は第4土曜22日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。朝夕ぐっと冷え込む季節です。風邪など召されない様に。月1回の楽しい集いにどうぞお越し下さい。

第18回大阪アマチュア映像祭開催

去る11月2日(日)大阪市立中央図書館にて、大阪市図書館フェスティバルの一環として大阪アマチュア映像祭が開催されました。府下9クラブが参加、18作品が上映され盛会でした。当OMCからは、渡辺雄史さんの「ハイタッチギネス挑戦」高瀬辰雄さんの「嗟峨の送り火・宵弘法」そして最後の上映作品に前田茂夫さんの「赤川仮橋最後の日」の貴重な記録作品で締めくくられました。

ここで上映される作品は、すべてDVDにて大阪市立中央図書館に寄贈され一般の方もいつでも借りて見られるようになっています。自分の作品が公共施設で保存していただいている事は有難い限りです。

■会員名簿送付

毎年1回会員名簿を送付しています。住所、電話などに変更がありましたら連絡願います。メールアドレスの空欄の方、メルアドが記入されていても毎月の例会ニュースが返却されてくる方が若干名おられます。メルアドの記載を望まない方もその旨を広報係までご連絡下さい。名簿から削除します。

10月例会のレポート

本格的な秋に入り朝夕めっきり冷え込む季節となりました。撮影に出掛けるのも丁度良い季節です。あちこち祭りやら文化祭や運動会、紅葉狩り等の題材は豊富です。

さあ皆さん、外へ出て撮影を楽しみましょう。今月も作品が多く盛会となりました。

今月の司会は進藤氏、書記は高瀬氏、映写係は井上、河合の両氏、録画係は江村氏、受付係は華岡、宮崎の両氏、掲示係は紙本氏の担当で会を進行しました。

出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、華岡、錦、前田、宮崎、森口、森下、山本、吉村、渡辺の21氏と作品14本でした。

上映作品（今月の講評は高瀬世話役です）

1. 手力の火祭・夏 (BD)

高瀬辰雄 6分40秒

8月に岐阜、長良川河畔で行われた火祭りを撮影した筆者の作品。イベント名に「夏」とつけられているように、本来は4月に各務原市の手力雄神社で行われる300年以上続く火祭りの神事。それが平成元年から長良川河畔で夏のイベントとして再演されている。降りかかる火の粉の中を担がれる花火神輿などはそれなりに見応えはあるが、本来の神社で間近で見る火祭には劣るようで、映像も迫力不足を否めず、来年は神社での撮影に挑戦しようかと考えています。

2. 北条鉄道の旅・後編 (BD)

紙本 勝 11分45秒

先月の「北条鉄道の旅・前編」の続き。北条鉄道8駅のうち播磨下里、長、播磨横田、終点・北条町の4つの駅を訪ねられた。播磨下里で下車、多聞寺で後藤又兵衛の400回忌法要を撮影されているが、当然、事前に調べて行かれているものと思われる。次の長駅では駅舎を利用した英会話教室や播磨横田駅の名前の入った枕木の紹介など、地元の人たちと電車の関わりを描写。終点の北条町駅では五百羅漢で有名な羅漢寺を訪れ、「北条鉄道はいろいろな思い出を作ってくれるローカル線で楽しい旅となりました」と結ばれている。作者の楽しさが画面から伝わる作品で、桜と菜の花の美しい風景の中に行く、薄グリーンの電車が印象に残りました。

3. 竹田のまち (BD)

進藤信男 11分50秒

竹田城址から竹田の町を俯瞰するシーンから始まります。そして竹田城の初代城主、太田垣光景の常光寺、最後の城主、赤松広秀の法樹寺、相撲の土俵のある表米神社などを紹介。天空の城、竹田城址があまりにも有名で、見るべきものはそこしかないと思っていたが、史跡やしっとりとした町並みなどに焦点を当てられた、作者ならではの作品づくりである。諏訪神社の秋祭りは、電飾がまばゆい宵宮の神輿や円山川を勇壮に渡る神輿、屋台の練りなど丹念に撮られ、祭りのシーンが全体の中で、やや多いようにも思われるが、町の人たちが総出で支え

る祭りの素晴らしさを見事に表現されています。

4. 天体ショー 皆既月食 (BD)

上田吉巳 4分0秒

10月8日に見られた皆既月食をソニーのデジタルカメラ HX60 (光学 30倍・望遠 720mm、超解像 60倍) で動画撮影された。18時0分に撮影が始まり、25分やや月の左下から欠け始める。56分、全体の3分の2ほど欠ける。そして19時28分ほとんど隠れる。約1時間後、20時32分、月が顔を出し始める。41分雲が現れ、月にかかるとより神秘的な雰囲気となる。21時12分、30分と月は輝きを取り戻し35分、元の満月に戻る。BGMがぴったりと合っており、約3時間半の神秘的な天体ショーを一層盛り上げています。

5. 古都に秋 鹿の角きり (BD)

森口吉正 12分0秒

トップシーンは奈良公園で戯れる鹿。春日大社神苑・万葉苑を通って鹿の角きり場に行かれたようで、思い草、ススキなど秋の風景を撮影。そして参道に出ると、そこには鹿の角きりを見ようと、大勢の人が並んでいる。それでも入場してからは比較的、撮影できる場所を確保されたようで、時々前席の人の頭がじゃますが、勢子が鹿を追うシーンをワイドで撮影、鹿が捕まるところも巧みなカメラワークでとらえられている。鹿が捕まり、神官が角を切り落とすシーンもアップで抑え、限られた撮影ポジションにもかかわらず迫力のある作品に仕上げられています。

6. 慈尊院と高野山 お礼御参り (BD)

吉村健一 13分50秒

慈尊院の長く続く土塀。中に入ると、みろく石をなで、御利益に授かろうとする人々。それらを撮影され、高野山へ。そして高野山では東日本大震災の慰霊碑、企業の慰霊碑、戦国武将の墓など丹念に撮られている。さらに奥の院、総本山金剛峰寺、御影堂、金堂、日本最大の石庭「蟠龍庭」、日本三大名鐘「大塔の鐘」など歴史ある建造物、史跡などを細かく、テロップを入れて紹介され、思い出に残る記録映像になっ

ていると思います。ただ手持ち撮影されており、ズームアップ等の際、画面が少し揺れるのが惜しまれます。

7. 熊野河内祭り (全) (BD)

河合源七郎 14分31秒

和歌山県串本町古座で7月に行われる祭り。9月例会で宵祭りを見せてもらったが、今回、本祭りを加え、全編としてまとめられた。色鮮やかな幟に飾られた何艘もの御舟が島全体が神域である河内島 (こうちじま・愛称コッタマ) へと古座川を遡る。夜になると、夜籠と呼ばれる暗闇の中で御舟が島を回る神事などが行われる。次の日、御舟は河内島の周りを回り、若者が漕ぐ權伝馬が競うように後に続くなど華やかな中にも勇壮な祭りが展開される。さらに獅子舞も奉納され、最後は花火が打ち上げられ、人々は祭りの余韻をいつまでも楽しむ。2日間昼夜にわたる祭りの全貌を撮影され、まさに労作といえます。

8. 臺灣 (BD)

有村 博 5分50秒

今年3月、OMCのお仲間4人で台湾を訪ねられた映像は、それぞれの作品でも拝見している。特に前田さんの「70年ぶりの帰郷」は感銘深い作品でしたが、その中で、通われていた台北の小学校を訪問されるというシーンがありました。その再会に同行された作者が前田さんと学校の先生がそれぞれの国の歌を歌い合う場面を撮影、互いの心が通い合う感動の映像として、まとめられている。そして電車の駅で懐かしい日本の歌謡曲を今でも覚えているとって歌う84歳の台湾人との出会いがあり、総統府や基隆港なども訪れ「少年時代が思い出され、楽しい台湾旅行になりました」と結ばれている。タイトルをあえて「臺灣」とされたのは、そうした古き良き時代への思い入れでしょうか。

9. タオルミーナ (BD)

華岡 汪 10分12秒

タオルミーナはシチリア島の東海岸にある世界的に有名な風光明媚な避暑地。14世紀に建てられたカターニア門や大聖堂広場のケンタウロスの噴水など歴史を感じさ

せる風景を丹念に描写されている。そして聖ニコラ聖堂の内部の絵画や彫刻などを撮られているが、ナレーションかテロップで説明が欲しい。広場の時計塔やサンジュセッペ教会、サンタカテリーナ教会など珍しい建物が目を引き、BC 3世紀に造られたギリシャ劇場が今も使われているのには驚かされる。街の眺望やイオニア海岸の美しい風景、ラストの夜のウンベルト通りの情景が印象的です。

10. さかいの秋まつり (BD)

山本正夢 10分10秒

「だんじり」といえば、岸和田のイメージが強いが、堺にもこんなに多くのだんじりがあり、勇壮に走る姿は岸和田に負けず劣らずといった、地元にお住いの作者ならではの作品。祭りは桜井神社の宮入から始まり、こおどりという雨乞いを起源とする豊作祈願の踊りが演じられ、だんじりが疾走するシーンへと移る。電柱にぶつかるだんじり、ぶん回し、やりまわしなど見所もきっちり抑えられている。アクティブなカメラワークで撮られ、動きのあるカット編集でまとめられた秀作といえます。

11. よさこい 土佐の夏 (BD)

江村一郎 7分30秒

何度か見せてもらっている土佐のよさこいをテーマとされた作品だが、タイトルのバックから続くトップシーンは思わず引き付けられる。祭りの人たちが行き交う足元をアップで30秒近くの固定した映像。これから始まる「よさこい」にワクワクするような思いを抱かせる。期待に違わず、踊る人物の微妙な表情やちょっとした仕草を逃さず、これを巧みなカットつないでいかれ、時折、挿入される携帯電話を持つ手やライトの照明、アイスクリームを口にする子供…踊りとは異質のカットも作者の手にかかると、よさこいの風景に溶け込んでしまうのはさすがです。

12. 熊野古道 祈りの晩夏 (DV)

岡本至弘 14分40秒

昨年12月例会で映写された作品を手直しされて持参。その時の講評でナレーションがほしいとありましたが、今回、ナレー

ションを入れられ、分かりやすくされている。和歌山県田辺市中辺路町の熊野古道沿いにある山道を登った家にその年、亡くなった方の初盆のお参りに行かれる。精霊棚の仏様にお経を上げ、近くの山の中の小川の淵でお供えや提灯を燃やす精霊送りと続く。手を合わせ拝む人たち、鐘の音、そしてBGMの歌が情感を盛り上がらせるが、川の音が大きいのが気になる個所も。夜になり、家の前で太鼓と老人の音頭で子供や若い女性も混じり、皆が踊り始める。熊野古道の山里の素朴さがなんとも心に沁みるシーンとなっています。

13. 夜の龍山寺 (BD)

前田茂夫 5分21秒

台湾・台北一の仏教寺院、龍山寺を夜に行かれた。派手な電飾がまばゆく度肝を抜かれたとテロップにあるように、日本の寺では考えられない、お寺の光景である。さまざまな神様が祀られており、その数は100以上とかで、それぞれの神に参拝する人が多く訪れている。長い線香を持ち拝む人、手を合わす男女、占いをする人…電飾の光の中での参拝の様子を丹念に描かれている。「仏教を基本とするが、日本と全然違うところに興味を惹かれた」というテロップの言葉通り、興味深く寺の至る所を撮られた作品です。

14. 天橋立・伊根湾・出石散策 (BD)

錦務 7分0秒

日本三景の一つ丹後半島の天橋立、伊根湾から兵庫県の出石を旅行された作品。天橋立では智恩寺、文殊堂から松並木などを周辺を散策、廻船橋が回転する様子を撮影。そして伊根湾めぐりの船で伊根へ。伊根では有名な舟屋を海の上から船の動きに沿って撮影。その後、一足飛びに出石に場面は転換、ちょうど見ごろの桜を出石城址や辰鼓楼を背景にまとめられている。それぞれのポイントをとらえ、編集された旅行スケッチといえます。ただ天橋立のシーンに比べ、伊根湾と出石ではもう少しいろいろなカットがあってもいいような気がします。

以上で例会を終え喫茶組と居酒屋組に別れてそれぞれ二次会を楽しみました。